ご存知ですか？　わがまち精華町を！　ふるさと案内人と行く

第１３回 ふるさと発見の旅　―春―

桜咲く大坂道を歩こう！

～山田・乾谷・柘榴の里～

開催日：４月　６日（土）
４月１０日（水）

集　合：午前９：３０
近鉄山田川駅前ロータリー

解　散：午後３：３０頃
大川センター･光台３丁目

≪コース 約８㎞≫山田川駅前（スタート）
→山田川　→新殿神社　→普賢院　→代官屋敷
→大坂道 道標　→龍王神社　→乾谷集落
→乾谷 大師堂　→日出神社　→東谷神社
→極楽寺　→観音山 西国三十三所観音石仏
→新谷の棚田　→大川センター庭園（解散）

「これが昔の大坂道だ」と
古老が云っていた…
と
いわれる道を
あっちこっち辿りながら･･･

主催：公益社団法人 精華町シルバー人材センター ふるさと案内人の会
後援：精華町　・精華町教育委員会

山田川と辻村橋

山田川

源流は高山。両国橋を経て、柘榴・乾谷・山田地区の約６キロの道のりを下り、木津川に合流する。

その間、幾つかの堰を使い、田畑に水を潤し、また、暮らしに欠かせない役割を担っていた。

昭和 30 年代後半から、上流の宅地開発に伴い、水質の悪化や、都市公団による山田川の改修工事などにより、この山田川も一挙に変身する。

辻村橋の銘板

“川の水が昔のように甦れあの清流が再び戻ってくれ”

『おらが村』、辻村垣内に架かる山田川の橋「辻村橋」への垣内の人々の強い想いが描かれている。

山田川井堰（ニューラバーダム）通称：風船ダム

江戸時代、山田川には１７箇所の井堰(いぜき)が設けられて、灌漑用水を引き耕地を潤していました。上流の住宅開発等による洪水防止のために河川改修がされ、川床が掘り下げられたために敷設された、新しく珍しい形式(ダム式)の井堰です。

新殿神社　　山田医王寺３

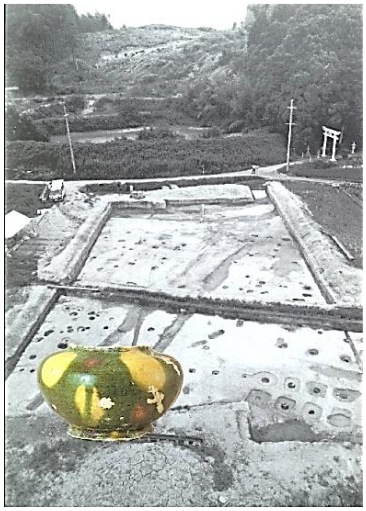
古くは植樹神社と称していた。　参道には樋ノ口中によって建てられた文政 12 年（1829）の石灯籠があり、鳥居の奥に能舞台・拝殿と天文 16 年（1547）の棟札を残している本殿が並んでいる。

須佐男命と天児屋根命を祀る。

十三重の石塔　１基　　重要文化財。室町時代の作

薬師如来坐像　１軀　　江戸時代の作。

樋の口遺跡　　山田樋ノ口地



（写真提供：精華町教育委員会）

　京都府教育委員会は稲蜂間宿禰仲村女の本拠地に関わりのある離宮跡説か、興福寺の官務蝶蔬に載っている山田寺跡の両方どちらかである、と結論付けをしている。
　遺物には、土師器・須恵器・二彩三彩の鉛彩陶器・白磁・瓦等がみられる。
寺院説のサンデンジと山田寺・心蓮寺や新殿神社の関係はあるのか謎である。

普賢院　　山田樋ノ口１

門前に「不許酒肉五辛入門内」の碑があり、創建などは不詳ですが、明治１６年近くの長福寺を合併しています。以前は寄棟造のお堂と庫裏もありましたが、ともに朽ち果てたので、１０年ほど前にブロック建の祠をつくり仏像類を収蔵されました。
　当院の域内に入ると神域・寺域のどちらでもない霊感が漂う独特の雰囲気を持つ院域となっています。

不動明王坐像　　１軀
普賢菩薩坐像　　１軀
阿弥陀如来坐像　１軀

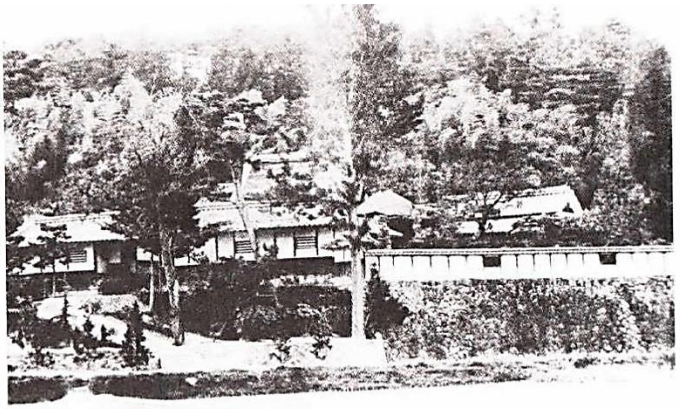
江戸時代の道標

右　「きづ」、「右きすい可（木津伊賀）」。左　「大坂」、「左はぜみち（吐師道）」とあり、明治まで「大坂道」と呼ばれ、大阪と伊賀を結ぶ街道であったことを物語っている。
　今は、国道１６３号の旧道です。

山田の代官福井家の屋敷図

江戸時代に、村役人組織の上に在地の有力者を代官に任命して知行地の管理を任せる在地代官制度を採った領主もあった。その在地代官として山田村を９代に亘って務められていた福井家の屋敷。

福井家は江戸時代の村の関係文書類を多く保存されていて、近代史研究者には宝の山となっている。



18 山田の代官 福井家の構え（昭和初期か）

龍王神社

乾谷金堀

龍王神社は乾谷金堀にあり、元は個人の家で祀られていたが、のち絶家により放置され洪水後荒廃していたが、昭和 22 年 5 月 24 日に山田荘小学校の奉安殿の建物を本殿として使用し再建された。

大坂道

古来より【伊賀街道・大坂街道・清滝街道】とも呼ばれており、
地元では【大坂道・太閤道・徳川道】とも呼ばれていました。
【徳川道】というのは、【本能寺の変】を受けて徳川家康がこの街道を使って伊賀の国に出た事が【徳川実記】という文章に出ています。そのとき「山田の里に一泊した」という記載もあり、司馬遼太郎も小説（覇王の家）に書いています。

大師堂　　乾谷

大師堂は、乾谷小字南里内にあり、乾谷集会所の南方約百メートルに位置する小さなお堂で、中には、30 センチ位の弘法太師像が安置されている。

その傍らにある井戸もまた、その起源は古く、大師に教えられて湧き出たものではないかと言われている。

日の出神社　　柘榴 109

本社は「光明皇后」をお祀りしています。　もとは大和国生駒郡高山村大字鹿ノ畑（現在の奈良県生駒市鹿畑町）に鎮座されていましたが、平安時代の延歴年間（782～806）の大洪水で御神体の大石がこの地まで流れてきて、その後当地で祀られるようになったと言われています。

現在社殿の傍らにある「神石」がその大石で地元では「雨乞い石」と呼び以前は干ばつの時この石を川に入れ雨乞いをするという風習がありました。

又、柘榴というこの地の名も上流から流れてきた大石が、ここにひっかかり留まったことにちなんで「石留」の二文字にそれぞれ木編をそえて村名にしたと伝えられています。

そこでクイズです。

日の出神社の御神体の「雨乞い石」の重さはどれ位？

① 180 kg　　② 230 kg　　③ 280 kg

東谷神社

柘榴垣内 124

素淺嗚命（すさのおのみこと）、天児屋根命（あめのこやねのみこと）の二柱を祭神とする柘榴地区の氏神です。由緒や創建年代は不明ですが、神殿背後の森の中に残る朽ちた土塀が、古くから村の大切な守護神として永らく崇められてきた歴史を物語っているように思われます。

この社には村人の篤(あつ)い信仰心から宮守を筆頭とする宮座が今も残っており、古式に則った年中行事が続けられ、以前は宮守が神主の役割を果たしていた事が解ります。江戸時代には東谷神社の神宮寺として「見性寺」があり、「東谷神社の宮座行事」は、享和二年（1802）の記録によれば見性寺の行事として、正月二日の牛玉札（ごおうふだ）の配布、正月六日の勧請縄掛け、二月五日の御弓、二月八日と八月八日の大般若経と、毎月の法華経読経などが行われていました。神仏分離によって神宮寺は整理されましたが、その宮寺の年中行事は宮座行事に組み入れられて今も受け継がれているのです。

極楽寺

柘榴垣内 71

参道の石段の南側斜面に祀ってある、光背付きの無数の無縁仏が無常観を漂わせ寺院らしい雰囲気を一層高めています。また、鐘楼の傍から見下ろす山田の風景は一幅の絵である。

寺の創立の時期は不明ですが、元禄 16 年（1703）や享保 17 年（1732）のこの寺の什物に仏画があることから、江戸時代の半ばにはすでに存在していたと考えられます。梵鐘は京都府指定文化財で、鎌倉時代に遡る貴重な鐘の一つです。刻銘から、応長 2 年（1312）2 月に僧定意が山田医王寺に寄進したものです。医王寺は山城国一揆後に衰退してしまったものと推測されます。

鐘楼の傍から山田を見下ろしたところ

極楽寺に保存されている山田医王寺の梵鐘。現在の極楽寺の鐘楼に釣り下げられている梵鐘ではない。

（写真提供：
精華町教育委員会）

無縁仏のある斜面から鐘楼を見上げたところ、途中石段右側にあるのは「牡丹桜」です。

「西国三十三所観音霊場」の石仏　　柘榴の観音山

元文元　辰年　と刻まれている。（元年　辰の年 1736　江戸時代中期）

中井庄右衛門という方の御嬢さんは生まれて２歳位時から非常に病弱で、大変苦しんでおられた。八卦見さんから西国三十三所へ子供さんを連れて参ったら良いのではといわれたが、そこに参ることが出来ないため、ここに西国三十三所の観音石仏を造ってお参りされた、と伝えられている。

四方詣り　（東谷神社）

柘榴区の東谷神社に伝わる行事に四方参りがある。今もなを、宮守を中心とした宮座が、数多い神社の年中行事の一つとして執り行っている。（宮座は、上座 10 人、下座１０人で上座の人が四方参りをする。）四方参りは、毎年２月６日に行われ、各所で御神酒を頂き、般若心境を唱える。（…最近は土日に行われることが多い）

順路は、方位五か所と日の出神社参拝で何故か六ヶ所？　五穀豊饒と家内安全を祈願する。方向によって、その干支が置かれています。　　ここは、亥（ｲﾉｼｼ）：北北西の方向。

写真：精華検定より

- 十二支：子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥
- 恵　方：甲(ｷﾉｴ)、丙(ﾋﾉｴ)、庚(ｶﾉｴ)、壬(ﾐｽﾞﾉｴ)
- 謂われ：相手方より攻められない様に方位を守る守護神

未

酉

戌

亥

丑

新田の棚田

大川センター

大川財団は、故大川功氏より寄付を受けて、京都府の関西文化学術研究都市に 2001 年 4 月、情報通信技術に関する先駆的研究および情報化技術の啓発、普及を目的として、「大川センター」を建設しました。
現在、「大川センター」では、CSK グループの行う社会貢献活動である CAMP（Children's Art Museum and Park）が継続的に開催されております。
CAMP では、米国マサチューセッツ工科大学をはじめとする国内外の大学、研究機関とも連携しながら、地元の小中学生を中心とした情報通信やコミュニケーションに関する創作ワークショップの提供を通じて、同分野の啓発を図ると共に、教育、文化の向上に努めております。
また、利用を希望とする大学、教育・研究機関や地域の団体等にも施設を無償で開放しており、シンポジウムや国際会議、教育活動等に幅広く活用されています。

施設の概要
所在地　　：京都府相楽郡精華町光台 3 丁目 9
施設概要　：敷地面積　27,100m^2　　建築面積　2,040m^2

公益財団法人大川情報通信基金（略称：大川財団）は、日本における情報通信産業の草創期を立ち上げ、株式会社 CSK（現 SCSK 株式会社の前身の一つ）を創業した故大川功氏が中心となって設立された公益法人です。

公益財団法人大川情報通信基金（略称：大川財団）HP より

――― メモ欄 ―――

☆ 交通ルールの遵守

☆ ゴミは捨てずに持ち帰る

☆ 通り道の草花は絶対に摘み取らない

☆ トイレ等へ行ったり、途中で帰る場合は必ず引率者に連絡する

ふるさと発見の旅　・・・いままで案内したところは・・・

第　１回　『お千代半兵衛の眠る丘からけいはんな丘陵を訪ねて』
第　２回　『木津川沿いを歩く』
第　３回　『古の佇まいの面影を残す精華古道を歩く』
第　４回　『学研都市研究施設を巡り歩く』
第　５回　『山田川流域の里を歴史と文化財の謎を探りながら歩く』
第　６回　『精華町最高峰「嶽山（だけやま）」にいだかれた里　東畑を訪ねて』
第　７回　『祝園八景を探る旅』
第　８回　『山城の国一揆終焉の地を訪ねて』
第　９回　『南山城三十三所巡り in 精華』
第１０回　『河井寛次郎がこよなく愛した　菅井～植田の里巡り』
第１１回　『知っているようで知らない　精華学研都市を巡る旅』
第１２回　『山城國菱田村絵図でたどる 晩秋の藪の渡しと三つの春日神社』

詳細資料は「精華町ホームページ」に掲載していますのでご覧ください。

・精華町ホームページ　⇒　**http://www.town.seika.kyoto.jp/**

トップ ⇒ 観光・史跡 ⇒ 精華町ふるさと案内人の会 ⇒ ふるさと案内人の会「ふるさと発見の旅」

公益社団法人　精華町シルバー人材センター
ふるさと案内人の会

〒６１９－０２４４　京都府相楽郡精華町北稲八間井手ノ元２７－１
TEL　0774－98－0510　FAX　0774－98－0670
e-mail　seika@sjc. ne. jp